JP-A-48-58470

1. Title of the Invention

Surface coated chip

2. Scope of claim

A surface coated chip, which is a cemented carbide cutting chip coated with a hard substance on the surface, comprising having a cutting face without having the coated face of hard substance being not more than 3 mm width along a cutting edge.

顧 (5) 後記号なし

昭和46年11月20日

特許庁長官 并 土 武

発明の名称

東京都品川区西品川 1丁目27番20号

3. 特許出版人

東京都千代田区大手町1丁目5番2

三菱金属鉱業株式会社

*

實際銀手代用区大手町 1 T 目 5 番 2 号 三菱金属鉱業株式 会社 内 (電話 270-8451) (郵便番号 100) 村

(0064)

華芸

19 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭

48 - 58470

43公開日 昭48.(1973) 8.16 46 -92732

②)特願昭 22出願日

昭化6.(197/)//.20

審査請求 未請求

(全2頁)

庁内整理番号 6350 33

60日本分類

74 A11

表面被覆チッフ

面に硬質物質を被覆した報硬合金切削チップ に おいて。 切刃稜 に そつて 3 軸 市 以内 の 硬 質 物 質 穫 穫 面 を 設 け ない す く い 面 を 有 す る こ と か ら ふ

本発明は表面に硬質物質を被覆した超硬合金切 削チップのすくい面上に、切刃稜にそつて硬質物 ツブに関するものである。

従来化学蒸務法その他の方法により超硬合金切 ップの表面全面を硬質物質例えばTic 等によ り被覆して切削加工に用いている。しかしながら 切刃稜附近のすくい面上のTiC 被膜は被削材との 親和性がないため構成刃先の生成を妨げ安定した 耐摩耗性が得られないことと。もろいTiO 被獲屬 が切刃稜附近を覆つているので刃先の靱性低下を

量を従来の超硬合金よりも大きく取る必要があり 時の切刃稜の切削抵抗の増大並びに切刃部の過熱 による塑性変形を生じ、切削性能の低下をまぬが

本発明は上記の欠点を改良し、切削性能並びに 性の良好な表面被覆チップを提供する。表 面に硬質物質としてTiC等を被釋した超硬合金切 削チップのすくい面上に、切刃稜にそつて3瞬巾 の範囲に硬質物質被覆面を設けないように形 成した表面被覆チップを実施例にもとづいて説明 すると.

W C 81%、Ti C 6%、Co 10%、TaC3%の組成の 超硬合金に、すくい面上の切刃稜に0.6 mm 市の部分 を残して全面にTiCを4μの厚さに被覆し下記の 条件で切削試験を行つた。

被削材 目 45 ℃。切削速度 140 π/ ∞。切込み 2 # . 送り0.4 m / r e v . 逃げ面摩耗0.2 m を寿命として 比較したところ全面TiC被覆した従来のものは15

5.3%

也順人 三菱金属繁葉株式会社 代理人 木 村 猛 5. 設計書類の目録

(1) 男 細 書 1 通

(4) 顧書剧本 「通

以外のRD RT ・ シナが クェルンナが 東京 都品川区 西品川 1 丁目 27 番 20 号 ミッピルキッグクコウキョウンベキガインドトウキョウ・セイザクン3 三菱金属鉱業株式会社 東京 製作所内 オッ グロ ヒデ オ こ 黒 秀 夫

シナがクエン・ナナル 東京都品川区西品川 1 丁目 27 番 20 号 ミンピンキン・ノウコン・ギョウカナジ・キガインヤトウキョウ・セイサウンコ 三菱金属鉱業株式会社東京製作所内 キク チ ノリフミ 第 旭 則 文

ジナがクニンシナがフ 東京都品川区西品川 1 丁目 27 番 20 号 ミツンペングラコウギョウカブシャガパンヤトウキョウセイサクショ 三菱金属鉱業株式会社 東京製作所内 ッジ ゴウ ヤス オ 辻 郷 康 生

シナがク キシンナが 東京 都品川区西品川 1 丁目 27 番 20 号 ミンピンヤングタコウギョウガブンヤブバンヤトウキョウセイサクショ 三菱 金属 鉱 葉 株 式 会 社 東京 製 作所内 カリ / カッ キチ 数 野 勝 ち